

## パワーはどこから生まれる？

教育委員 橋本 和明

毎年運動会にいろいろな学校に教育委員として行かせていただいています。そこでいつも感じるがあります。それは「なんて子どもたちにはあんなパワーがあるのだろうか?」「あのパワーはどこから生まれてくるのだろうか?」ということです。

子どもたちがパワーがあるというのはなぜなのでしょう?そのことを改めて考えさせられます。例えば、「御飯をしっかり食べているから」「友達が頑張っているので負けられないから」など、その答えはいろいろあるでしょう。私なりに考えた答えは、「愛情を持って育てられたから」ではないかと思うのです。ご両親からかけがえのない存在として育てられた、おじいちゃんやおばあちゃんから大切にしてもらった。それゆえ、自然とその子の中にパワーが蓄積されてきたと思うのです。また、家族だけではなく、友達や周囲の人からほめられたり、認められたりすることでもきっとパワーを手に入れたはずです。例えば、同級生から「サッカーがうまいね。この前の試合でも活躍してたね」と言われると、少々の厳しい練習にも耐えたりします。また、「いつも成績がいいね」とほめられると、多少難しい問題でも粘り強く解こうとします。これこそが本当のパワーなのです。つまり、一時の爆発的な力というよりも、苦しくともすぐに諦めず、物事に粘り強く立ち向かうことが真のパワーだと思います。

ところが、それとは反対に、パワーが枯渇している子どもも悲しいことですがいるのも事実です。それは親から虐待を受けていたり、友達からいじめを受けていたりする場合であったりします。言ってみれば、暴力（言葉による暴力も含む）によって、その子の本来持っているパワーがなくなってしまう、何もする意欲をなくしたりします。また、自分のことを周囲が無視をしたり認めてくれないことが続くと、自分自身は駄目な人間なのではないかと思ひ込んでしまい、持っているパワーさえも手放してしまいます。そして、そんな彼らが今度は手っ取り早くパワーを手に入れようとして、暴力を振るったり、薬物などに手を出してしまうことにもなります。なぜなら、暴力を振るうことで相手は自分の言いなりになり服従するため、あたかも自分がパワーをつけたように思ってしまうからです。また、薬物を使用することで、自分が万能であると錯覚してしまうのかもしれませんが、当然のことながら、それは本当のパワーではありません。

このように考えると、一人ひとり持っているパワーをより大きなパワーにしていくためには、互いにかかけがえのない存在として認め合い、よいところを評価していくことが大切なのです。独力でパワーを身につけることもできるかもしれませんが、それは限界があります。やはり家族や周囲や社会からほめられ認められてこそ、大きなパワーになっていくのだと思います。